

話のネタ「津島市・あま市・弥富市のヒミツ」 —授業で使える、授業を面白くする、社会科が大好きになる—

【海部編】

001:海部郡はかつて人口日本一だった。

2005年4月に旧佐織町・佐屋町・立田村・八開村が対等合併し愛西市が誕生するまで、海部郡の人口は約26万人で、郡としては当時日本一でした。現在は約7万人で34位です。

002:海部地方70の学校の内、方角では西が一番多い。

海部地方には小中合わせて71の学校があります。そのうち、もともとの所在地を表す方位が校名についている学校の他にも、分離独立等で本校と区別するために新たに方位を表す「東西南北」を校名につけた学校が多くあります。

内訳は、

東が4校(津島・東小、甚目寺東小、美和東小、十四山東部小)、

西が6校(津島・西小、甚目寺西小、佐屋西小、十四山西部小、大治西小、佐織西中)

南が5校(津島・南小、甚目寺南小、立田南部小、甚目寺南中、大治南小)

北が5校(津島・北小、立田北部小、七宝北中、弥富北中、蟹江北中)

と、西がやや多いようです。(番外編:西一須西小、西川端小、南一栄南小、北一北河田小)

003:意外と多い海部地方の地酒

水が豊かな海部地方には、多くの酒蔵(酒造メーカー)があります。

- 津島市…長珍、神鶴
- 愛西市…千瓢、平勇、米宗、義侠
- 蟹江町…四天王、酔泉

また、みりんや醤油のメーカーもあります。

004:国道1号線にはドラム缶が埋まっている。

伊勢湾台風で国道1号線は壊滅的な被害を受けました。海面の高さまでかさ上げをして早急に普及するため、ドラム缶に土を詰めかさ上げしました。

005:伊勢湾台風殉難の碑は各地にある。

006:ご当地銘菓・食品がずらり

海部地方には、各市町村(旧も含む)名や特産物の名前を冠した食品があります。

- 津島市…あかだ、くつわ、もろこ寿司
- 愛西市…レンコンチップス
- 弥富市…金魚もなか
- あま市…七宝味噌
- 蟹江町…蟹江もなか、いなまん(ボラの幼魚イナを使った郷土料理)
- 大治町…大治せんべい
- 飛島村…飛島せんべい

007:この地域には、「森」という名前の入った校章の学校が3つあった。

初代文部大臣森有礼は、前ヶ須駅(弥富駅)で、津島高等小学校とその分校(甚目寺・前ヶ須)の子どもたちの隊列と合唱を聴きました。森文部大臣は感激し、褒美を与えました。「これは海部地方の教育の誇りである」と津島高等小学校とその分校では「森」という字を入れた校章を使用しました。ちなみに現在も「森」という字が入った校章を使用しているのは甚目寺小学校のみです。

008:「休憩」をあらわす「放課」という言葉は、愛知県の学校だけで使われて

いる。

授業と授業の間の時間を「休憩・休み時間」と言います。愛知県の学校では「放課」、昼の長い休憩を「昼放課」と言います。これは愛知県だけで使われている言葉です。なぜか？明治6年、愛知県では「愛知県義校規則」という条例がつけられました。この条例の中で愛知県だけで使用されました。もともと「放課」とは「課業を放つ」という意味で、授業のない時間のことを指します。「休憩・休み時間」に比べると授業の大切さに力点が置かれている言葉と言えるかもしれません。授業が終わったあとの「放課後」は全国的に使用されています。

【あま市】

201:甚目寺小の校歌の歌詞は時代と共に変化している。

甚目寺小の校歌の1番の歌詞には、「濃尾平野に地を占めて 住まえる人の数4万」となっていますが、当初は「5千」だったそうで、人口増加と共にこの部分だけ歌詞が変えられてきました。現在はあま市甚目寺地区の人口を歌っています。

202:あま市(美和町・七宝町)は戦国大名の宝庫

歴史ブームの中でも一番人気は戦国時代。信長・秀吉・家康という郷土三英傑ゆかりの戦国大名の中には海部地方出身の人物も多くいます。特に美和町・七宝町には有名人が多くいます。美和町出身としては、福島正則、蜂須賀正勝(小六)・家政親子、羽柴秀次(秀吉の甥で関白)が有名です。七宝町出身としては、前田まつ(利家の妻)が有名です。

203:あま市には、日本で唯一の漬け物の神社がある。

旧甚目寺町には萱津神社という漬け物神様を祭った神社があり、全国の漬け物業者が集まる。伝承によれば、日本武尊が萱津に来た時、里の者が塩漬けの野菜を出し、日本武尊が「藪に香のもの」と感激したことに始まります。

204:甚目寺観音は尾張四観音の一つに数えられている。

名古屋城から見て鬼門の方角にある四つのお寺(甚目寺、荒子、笠寺、竜泉寺)は、尾張四観音として特別な地位を占めています。ただし、節分の恵方(縁起の良い方角)は5年に一回のローテーションでまわっており、笠寺→竜泉寺→荒子→笠寺→甚目寺の順となっています。2012年の恵方は甚目寺観音です。

205:甚目寺東小は清州飛行場の後に建てられた。

清州飛行場は、昭和19年10月に本土決戦に備えて、緊急に造られた陸軍の飛行場です。半年ほどしか使用されず、幻の飛行場と言われています。この飛行場の目的はアメリカ軍の迎撃でした。

206:七宝焼は焼き物(陶磁器)でない。

七宝といえば「七宝焼」です。一見陶磁器の壺や皿のように見えますが、実は本体は銅でできています。また、多くの工程に分かれ、別々の人が担当するため、陶磁器のように人間国宝の指定を受けることが難しいようです。しかし、その技術はすばらしく、見る人の心を魅了してやみません。あま市ができたとき、旧七宝町だけが町名に七宝の名前を残しました。

207:旧美和町には尾張初のキリシタンがいた。

尾張のキリシタン第1号は、花正のコンスタンチノだと言われています。彼はルイス・フロイスの「日本史」にも登場します。沢城で高山右近の父に仕え、お城のキリスト教の施設を任されていたと言われています。多くの人に洗礼を授け、戦国時代後半の代表的なクリスチャンとなりました。

208:二・二六事件を裁いた陸軍法務官はあま市の出身である。

陸軍法務官の小川関次郎はあま市木折の農家に生まれました。明治大学を苦学して卒業した後、陸軍法務官となり、軍事裁判を担当しました。昭和10年には相沢事件を、昭和11年には「二・二六事件」の真崎甚三郎大将を裁くことになりました。

209:ハンセン病の治療方法をめぐり、患者の隔離政策に反対し、患者の人権を考えた小笠原登博士は旧甚目寺町の人である。

小笠原登博士は、ハンセン病は考えられるほど感染力が強くなく、患者を離島などに隔離する必要がないことを医者良心として、主張しました。政府を批判したとして、治療方法が認められず、大学教授にもなれませんでした。しかし現在、ハンセン病の患者の人権を守った良心的な医師として高く評価されています。

【津島市】

501:海部地方最古の歴史をもつ学校は、津島市立南小学校である。

明治5年4月1日、延命寺・雲居寺両義校以来の歴史を誇っています。同年8月には甚目寺小学校と佐屋小学校が、9月には蟹江小学校が開校しています。

502:津島市は円空仏が1008体もある。

円空(美濃の国生まれの僧侶・江戸時代)さんといえれば全国を行脚し、各地の多くの円空仏といわれるを仏像を残しています。中でも、津島市の地蔵堂には、千体仏(実際が1008体あるそうですが)が完全な形で残っており、全国でここだけだといわれています。

503:神守の宿は道路を直角に曲げて作ってあった。

一里塚や格子作りの古い街並みなど、佐屋街道の宿場場町の面影を残す神守町ですが、神守小近くの憶感神社の前の道は南から西へ直角に曲がったL字型になっています。これは、街道を大名行列が通るとき、百姓・町人などは道端で土下座をしなければなりません。そこで、土下座の時間を短くするために、道を直角に曲げて見える範囲を狭くする工夫がされていました。また、神守小の前の「おうまや」という店の名前は当時そこに馬をつないでおいた場所の名残だそうです。

504:錬成館は日本の代表的な三つの建物の特徴を取り込んでいる。

海部地方の武道の拠点施設として、東公園内に錬成館が昭和55年に建てられましたが、この建物は、全体のイメージが東大寺大仏殿、白壁が白鷺城(姫路城)、屋根瓦が天平の葺として有名な唐招提寺をイメージして建てられています。

505:天王川公園で昔はオートレースをやっていた。

昭和42年まで、全国から有名レーサーが集まり、天王川公園でオートレースが開催され、津島市の大きな収入源となっていました。

506:神島田小学校の校名は。

北永和村からの改名。神島田地内に「神明社」「津島神社」「熱田社」があり、これらの神社から一字ずつをとって「神島田」という地名や校名を作りました。

507:津島のまちには、どのようにまちができたか、まちについての物語が伝わっている。

『浪合記』と言います。江戸時代中期、尾張藩士天野信景が、高須藩で見つけました。後醍醐天皇の御孫尹良親王とその子良王君に従った四家七苗字の人たちの物語です。

四家 大橋・岡本・山川・恒川

七苗字 堀田・平野・服部・鈴木・真野・光賀・河村

浪合記は今で言う大河ドラマとなっており、江戸時代に広く読まれたました。

508:明治のはじめ、先生たちを養成する学校が津島にあった

海東郡・海西郡共立陶成学校が、明治13年に西御堂町の西福寺に開校しました。1年制の教師養成学校でした。

509:津島の名物を食べよう

津島の名物といえば、あかだ・くつわ。近江屋弥三郎以来、津島神社参拝のお土産となっています。津島麩が入った重箱うどんは、津島を訪れた時の食事の定番となっていました。明治になると「柿屋饅頭」。酒蒸し饅頭。柿屋とは佐織縞の流行していた柄に由来します。近江商人、二七翁塚本源三郎の命名。

【弥富市】

701:弥富市立白鳥小学校の校名は白文鳥発祥の地から名付けられた。

昭和48年、弥生小学校から分離する際、この地域の特産の白文鳥発祥の地にちなんで名付けられました。ちなみに、鍋田南部小であった栄南小は「両国小」、分離した桜小は「錦小」という名前が、校名を付ける時に候補にあがったそうです。

702:弥富市には日本一海拔の低い駅がある。

JRの弥富駅は海拔-0.93mとされ、日本一低い土地にある駅として有名です。しかし、近鉄弥富駅の方が低いのではという指摘もあります。

703:弥富の金魚は宇宙に行ったことがある。

弥富市の金魚は、日本三大産地(大和郡山・江戸川区)の一つとして有名です。金魚の生産には発色を良くするために鉄分を多く含んだ豊富な水が必要で、弥富市は適していました。生産量は、大和郡山市に譲りますが、種類、売上高は日本一を誇っています。(実は、弥富金魚という名前ですが飛島村でも生産しています)1994年には、宇宙酔いの実験のため、向井千秋さんがスペースシャトルコロンビア号で宇宙に運びました。この金魚の子孫は「宇宙金魚」として大切にされています。余談ですが、2007年には、「近所の金魚は弥富のきんちゃん」という弥富金魚のイメージソングが作られたそうです。

704:弥富市から横綱が誕生している。

大相撲第28代横綱「大錦大五郎」は鍋田村の出身です。1918(大正7)年に35歳で横綱になり、優勝5回の記録を残しています。巨漢力士の多い今とは違って、176cm、113kgの体格だったそうです。現在でも、弥富市歴史民俗資料館には肖像画と使用していた大うちわが展示されています。

【その他】

807:各市町村のゆるキャラを紹介。

7月に実施された「JIMOキャラ(地元ゆるキャラ)選手権」(中日新聞社主催)では、以下の通り。

津島市 「つし丸」18位 弥富市 「キンちゃん」28位

愛西市 「あいさいさん」30位 あま市 「あまえん坊」

あま市教委公認 「シッピョン」「甚太郎」「ふく王」「ハッチー」

